

# プロの演奏家に評価される 音づくりの技術力

職人の皆さん。お客さまの語る音を職人の言葉（形や寸法）に翻訳（理解）して楽器に仕上げます

三味線作りはまずお客さまの注文に合わせて、棹は棹師、胴は胴師といった専門職人にパーツを発注し、最後にそれらを三味線の形に仕上げていきます。芝崎勇生代表取締役のお父さん、芝崎勇二さんはこの分野で東京都優秀技能者（東京マイスター）の認定を受けています。

亀屋邦楽器の強みはプロにも評価される音づくり。目標はお客さまの理想とする音を作ること。特にプロの演奏家の方からの音の注文は非常に厳しいものだそうです。職人は音のイメージを三味線の形や寸法に翻訳（理解）して楽器に仕上げていきます。一番大事なのは皮の張りで、お客さまの音の好みに応じて皮を選んで張り上げます。最初の音で評価が決まってしまうので、完成した三味線の音色を聞いてもらう瞬間はものすごく緊張するそうです。

芝崎代表取締役のこだわりは、メイドイン亀屋の品質を維持していくこと。その上で各職人が工夫を加えてより良い楽器を作ることです。



## ここがすごい!! 破いて、破いて、身体で覚える

音づくりの要、皮張りは難しい技術です。パンパンに張れば強い音になり、静かな音が欲しければそのように張ります。張り過ぎれば破れて、破れると怖くなって張りがゆるんでしまう。しかも皮は天然物なので張り加減は一定ではありません。若い職人は、何度も皮を破きながら、その加減を身体で覚えるしかないそうです。



刃物も砥石も専用のものは売っていないので、ぜんぶ自分で作る



このように三味線に蒔絵をのせることもできます



東京マイスター 芝崎勇二さん

### 有限会社亀屋邦楽器

www.e-kameya.com

代表者 芝崎 勇生  
所在地 世田谷区豪徳寺2-30-10  
設立 昭和42年(1967年)  
主な事業 三味線・琴・三線・和胡弓の修理、販売  
連絡先 ☎03-3429-8389



芝崎勇生代表取締役

## VOICE 最初から最後まで 関わられる仕事の面白さ

今の仕事は分業が多く、完成品が何かわからないことも多いですが、この仕事はパーツの発注から組み立て、皮を張って音を作り上げるまですべてを自分の責任でできるところがやりがいです。その上で、お客さまの求める音をうまく仕上げられたときには、大きな達成感があります。

世田谷地域

北沢地域

玉川地域

砧地域

烏山地域